

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500079		
法人名	㈱光樹		
事業所名	グループホーム光樹の杜		
所在地	佐賀県西松浦郡有田町戸杓 丙433番地1		
自己評価作成日	平成 23 年4月 26 日	評価結果市町村受理日	平成23年7月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成23年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達の事業所は、中心地の有田駅より西に約1kmの閑静な住宅地に、平成17年に開設され7年目を迎えました。ホームは料亭山荘跡地に建ち、四季を感じさせる広大な日本庭園を併設し、静かな環境を有しています。又、系列の幼稚園、保育園との交流も成されています。西松浦郡有田町は2016年 平成28年に有田焼創業400年を迎える、歴史と文化の薫る町です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は料亭の跡地を利用して建設されており、広大な敷地の中に2ユニットのホームと見事な庭園が閑静な有田の高台に位置している。職員配置も充実しており、利用者が快適に生活できる環境となっている。地域の関係者が共同し設立された事業所で、日ごろから地域に根差した関わりが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				
	たんぽぽ	さくら			たんぽぽ	さくら			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない					

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(たんぽぽ)	自己評価(さくら)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念、基本方針を施設内各所に掲示している。又、朝の申し送り時に唱和すると共に、常に意識付けが出来るよう職員は心がけている。	事業所の基本理念、基本方針を施設内各所に掲示している。又、朝の申し送り時に唱和すると共に、常に意識付けが出来るよう職員は心がけている。	事業所の理念は玄関に掲示されており、その他にも5ヶ所ホーム内に掲示されている。職員も毎朝復唱し理念の徹底が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長年暮らされた地域との関係を尊重し、援助している。又、事業者、職員も同じ地域内に生活していて、常日頃交流が出来ている。特に今期は地区の班長も務めさせて頂きました。	長年暮らされた地域との関係を尊重し、援助している。又、事業者、職員も同じ地域内に生活していて、常日頃交流が出来ている。特に今期は地区の班長も務めさせて頂きました。	管理者が同じ地区からという事もあり、地区の一員としての地域活動がなされている。地域の夏祭りにも定期的に参加されている。又夏祭り開催時には施設の一部を開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の行事、会合など参加し、施設と職員の専門性をアピールしている。	地区の行事、会合など参加し、施設と職員の専門性をアピールしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、利用者状況、運営状況、地域の情報収集、ヒヤリハットの報告など他職種との意見交換を行い、結果を職場内でのサービス向上に活用している。	定期的に会議を行い、利用者状況、運営状況、地域の情報収集、ヒヤリハットの報告など他職種との意見交換を行い、結果を職場内でのサービス向上に活用している。	会議の出席者の都合を聞いて月末の午前中に開催している。司会者役が必ず全員に発言して頂く様な取り組みをしているので充実した会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村への働きかけ、市町村よりの情報収集を常日頃行い、関係を構築して、指導、助言を頂く事でサービスの質の向上に繋げている。	市町村への働きかけ、市町村よりの情報収集を常日頃行い、関係を構築して、指導、助言を頂く事でサービスの質の向上に繋げている。	町の担当者とは電話連絡やメールのやり取りが多いが、適切な情報を頂ける環境にあり実践されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内は施錠せず、開放性を基本にしている。又、身体拘束、言葉の拘束等は行わない様な体制で取り組んでいる。身体拘束の必要が生じた場合(入居者の安全の為)は、ご家族に説明し納得の上、書面で同意の契約をしている。	施設内は施錠せず、開放性を基本にしている。又、身体拘束、言葉の拘束等は行わない様な体制で取り組んでいる。身体拘束の必要が生じた場合(入居者の安全の為)は、ご家族に説明し納得の上、書面で同意の契約をしている。	センサー対応の方や安全ベルト対応の方がおられ、時間は短いが拘束する時間帯が設定されている。身体拘束についての研修は随時実施されている。	日々の利用者観察の過程で改善し将来的には解除できる可能性があるため、身体拘束に頼らない援助を今後期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	計画的に外部研修の機会を設けている。施設内では会議の中で取り上げ、常日頃より職員同士が声かけあい、身体的虐待、言葉の虐待防止に努めている。	計画的に外部研修の機会を設けている。施設内では会議の中で取り上げ、常日頃より職員同士が声かけあい、身体的虐待、言葉の虐待防止に努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価(たんぽぽ)	自己評価(さくら)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度、安心サポート等を利用されている方がいる。又、相談があれば支援に努めている。	実際に成年後見制度、安心サポート等を利用されている方がいる。又、相談があれば支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用契約書、重要事項説明書等の書類を作成し、説明と同意の上に契約を行っている。又、入所前には施設見学を随時設けている。	契約時は利用契約書、重要事項説明書等の書類を作成し、説明と同意の上に契約を行っている。又、入所前には施設見学を随時設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ロビーに意見箱を設けて苦情、意見要望を受け付けている。又、運営推進会にはご家族代表が参加され意見交換の機会がある、他にご家族面会時には意見等を聞けるような雰囲気作りにも努めている	ロビーに意見箱を設けて苦情、意見要望を受け付けている。又、運営推進会にはご家族代表が参加され意見交換の機会がある、他にご家族面会時には意見等を聞けるような雰囲気作りにも努めている	家族との関係は良好であり、常に家族の本音を聞き出せる様になっている。また、新人職員の紹介等は「光樹の杜だより」にて行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議、毎日のミーティング時に意見や提案を聞く場がある。また、必要時施設代表との面談で上記内容を展開させている。	毎月のユニット会議、毎日のミーティング時に意見や提案を聞く場がある。また、必要時施設代表との面談で上記内容を展開させている。	定期的に各ユニット毎に話し合いを実施している。時には経営者との面談もあり意見の反映の実践がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望に沿った勤務表を作成し、有給休暇など効率的に取れる環境にしている。又、勤務条件(給与、労働時間)に関しては、現在進行中である。	希望に沿った勤務表を作成し、有給休暇など効率的に取れる環境にしている。又、勤務条件(給与、労働時間)に関しては、現在進行中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、資格取得が容易になるよう、施設内・外の研修、指導を充実させ、個々人の介護の質の向上を図っている。	研修、資格取得が容易になるよう、施設内・外の研修、指導を充実させ、個々人の介護の質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員協議会等、定期的に参加しサービス向上に繋げている。又、自施設の方針として他施設との交流を奨励している。	介護支援専門員協議会等、定期的に参加しサービス向上に繋げている。又、自施設の方針として他施設との交流を奨励している。		

自己	外部	項目	自己評価(たんぽぽ)	自己評価(さくら)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時ゆっくりした時間をつくり、寄り添い傾聴する姿勢により、安心してもらえるような関係づくりに努めている。	自ら傾聴し、必要時スタッフ情報を得、関係を密にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より家族との関わりを持ち、家族の思いや要望に傾聴する事で信頼関係を築けるよう努めている。	家族の話を傾聴し、確認によりその思いを共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の情報より必要な支援を把握し、他サービス事業所などと連携し、サービス利用できるよう努めている。	本人や家族の思いを重視し、その展開ができるような支援を導いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存機能を活かし、本人ができることを一緒にする事で、共に過せる関係を築いている。	目線を同じにし、人生の先輩としての尊厳を保ち接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の会話の中で不安や思いを聴き、一緒に考えて本人を支える関係づくりに努めている。	利用者の思いを伝え、家族と同じ目標を持ち支援できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの場所への外出や以前より利用されている美容室などに行けるように支援している。	地域の中で生活している実感が湧くように定期的な外出、地域の方の面会があるように支援している。	玄関等はバリアフリーになっており、入り易い工夫がなされている。また、車椅子対応車を利用し地域へ出掛けていく事もなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	机の配置の工夫やレクリエーションの参加などで利用者同士が関わりあえるよう努めている。	入居者、個々の考えに基づき支え、支えられるような関係性ができるよう、精神面での関与に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(たんぽぽ)	自己評価(さくら)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族を通して、現在の状態を聞いたり、いつでも相談できるような関係作りに努めている。	家族、他サービス機関との情報を得、必要な支援をしている。又、行事などの招待もしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向に沿って、できる限りの環境づくりに努めているが、困難時は本人への再確認や家族への相談、ユニット会議などにより、本人本位になるよう検討している。	ケアプラン、日課表の日々チェック、修正で新しい情報を得ている。	本人から希望を聞ける方は限られているので、家族からの希望を多く取り入れている。また、本人の様子を観察しながらケアプランに反映する様な工夫がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、情報提供書などからこれまでの暮らし方の把握に努めている。	暮らし振りが見える計画表を立案し、無理のない生活ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや本人のできることを理解し現状把握に努めている。	個々の生活スタイルを把握し、無理なく過ごせるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の変化や本人の状態変化に応じスタッフ会議で検討したり、家族の要望をとり入れながら介護計画を立案・修正している。	日々のミーティングを活用し、情報を共有することができている。家族希望も折々に聞いて確認ができている。	各関係者と共に、現状に即した介護計画を作成されている。評価、担当者会議記録が、他の記録と共用されている。	書式の整備を進め、より分かりやすい書式作成に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録する事で、情報の共有に努め、気づきなどはユニット会議で話し合い、介護計画の見直しができるようにしている。	ケアプランに基づく記録は十分とは言えない。記録の学習会をもち、情報へと繋がる記録を書けるようにする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに合わせ、その時々支援が受けられるように努めている。	現在入居者対応のみだが、希望があればそれらの取り組みが可能なように、スタッフの教育を図る必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価(たんぽぽ)	自己評価(さくら)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との協働は、昨年班長を受けた事で、足がかりが出来た感はあるが、今後も関わりを蜜にしていく。開設以来、毎週音楽を楽しむ時間を作っている。	地域との協働は、昨年班長を受けた事で、足がかりが出来た感はあるが、今後も関わりを蜜にしていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する病院を継続的に受診したり、1ヶ月に1回の往診を受け適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の1回/月の往診は実施できており、また、容態変化時はFAXやTELなどで情報を提示し連携が図れている。	受診支援については24時間対応で行っている。受診対応はホームが担当し、入院対応は家族とホームが連携しながら対応がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者の日々の状態を把握し、異常などがあれば早期に報告することで、適切な看護を受けられるように支援している。	日々介護にあたっているスタッフが個々の認識を高め、問題意識をもって取り組み、気づきなどを早期に報告し看護師との連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話や面会時に病院スタッフとの情報交換により状態把握に努め、早期退院できるように備えている。	施設側の基本姿勢を伝えることと、各関係者とのコミュニケーションを十分に行い、利用者のサポートができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化に応じて、その都度家族の意向を聞き、かかりつけ医へも相談しながら施設内でできることを話し合っている。	早い段階から、家族への話し、希望を把握し支援の連携を図っているが、地域の関係者とは十分な関係とは言えない。	家族の希望を尊重し、医療が必要でなければホームでの生活を継続し、また本人の状態が変化すれば、随時状態に応じた対応がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルは常備しているが、スタッフが事故発生時に平穏な行動がとれるような指導はまだ十分ではない。	急変時対応マニュアルは常備しているが、スタッフが事故発生時に平穏な行動がとれるような指導はまだ十分ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフ間、地域との連携プレーの実施で、緊急時対応の充実を図っている。	スタッフ間、地域との連携プレーの実施で、緊急時対応の充実を図っている。	地域の消防団との連携が取れている。また、自動通報装置により素早い応援体制が整う仕組みになっている。	火災についての対策はなされているが、火災以外の地震対策等にも対策を講じられる事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価(たんぽぽ)	自己評価(さくら)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを理解し、会議などで言葉使いや声掛けについて話し合い、誇りやプライバシーを損ねない言葉使いができるように努めている。	職員のプライバシー保護の宣誓には始まり、スタッフ間で気づきがあれば注意できるような環境づくりをしている。	会議等で十分な話し合いがなされている。また、適切でない言葉使いがなされた場合には、確認出来る環境が整っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの話をじっくり傾聴し、利用者が思いや希望が気軽に言えるような環境づくりを心掛け、自己決定できるよう努めている。	自己決定を優先して頂き、行動の指標としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の状態や希望を把握し、業務優先ではなく、一人ひとりのペースに合わせた暮らしができるように支援している。	家族の願いもそうであるように、スタッフの人格を高め、利用者に接することができるように職員教育の徹底が図られている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みのカットやパーマができるように数ヶ月に1回は訪問美容を頼んでいる。その他にも、希望時には家族に依頼し、髪染などできるように支援している。	定期的に訪問美容室を利用し、利用者の思いに応えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の誕生日には赤飯や手作りケーキを提供し、食事が楽しめるように工夫している。また、食前の台拭きや食後の後片付け、食器洗いなど個々の力を活かせるように努めている。	個々の食事状況を把握し、食事時間・食事内容と細かに対応できている。	有田の特徴を生かして食器にこだわりを持ち、見た目にも楽しめる食事提供がなされている。また近所から頂き物があれば食卓に乗るようにされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態(刻み食・ミキサー食)にすることで、1日の食事摂取量を確保できるよう支援している。	個々利用者の食事スタイルを大切に、必要カロリーがとれるように食事量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で歯磨きができる利用者には口腔ケアを促し、介助が必要な利用者は歯磨きとうがい薬を使用し、口腔の清潔保持に努めている。	口腔ケアの徹底をスタッフに教育し、個々に合った支援を展開している。		

自己	外部	項目	自己評価(たんぽぽ)	自己評価(さくら)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握することで一人ひとりの状況に合わせ、定期的なトイレ誘導を行っている。	入居者の自立程度により細かい支援をしている。排泄チェック表の活用により、できるだけ下着着用を心がけている。	排泄パターンを個人毎に把握されており、その時間に基づいて排泄支援がなされている。出来るだけオムツに頼らない生活をして頂ける様、配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し、便秘傾向時は、腹部マッサージや水分摂取を行い、必要時は医師の指示のもとに下剤使用している。	排泄パターンの把握と、腹部マッサージの励行により自然排便を心がけている。必要時薬の服用により対処している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日により入浴者は決まっているが、入浴前に利用者の体調や気分を確認することで、一人ひとりが楽しく入浴できるように支援している。	安全の面から必ず付き添った入浴である。入浴を楽しめるように好みの入浴剤・湯の温度などを配慮している。	本人の体調に合わせて入浴できる仕組みが確立されている。また、体の動きの程度に合わせてユニットの浴室を使い分けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送りやミーティングにより、その日の体調を把握し、一人ひとりに合わせた生活リズムで休息してもらっている。	できるだけスムーズな入眠ができるように昼間の活動を重視し、無理強いないでリビングでの見守りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬剤説明書をはさめることで、薬の目的や副作用、用法などいつでも職員が確認できるようにしている。服薬は自施設の服薬フローチャートを徹底する事で、確実な服薬支援ができるように努めている。	内服薬の理解ができ様に個々の薬手帳を近くにおき、確実に内服ができる様にと指導を心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みや力に応じたレクリエーション(ぬり絵など)を取り入れ、気分転換を図れるよう支援している。	個々の思いを聞き出し、無理にならないよう、疲れないよう行動ができている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状況によりドライブや散歩に出掛けられるように計画をたてている。また、利用者の表情などから気分を察し、家族と協力しながら外出できるように支援している。	個々の状態に沿って、徒歩・車椅子・車で外出を試みている。また、外来受診の活用でも心掛けている。家族協力は全員とはいえないができています。	ホームには広いテラスがあるので、花壇作りや日光浴等が随時なされている。また、受診時等に馴染みの場所へ行ったり工夫がなされている。	



自己	外部	項目	自己評価(たんぽぽ)	自己評価(さくら)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は施設で管理しているが、本人が欲しい物などがあれば預かり金よりすぐに使えるようにしている。	常時、金銭の管理は施設側であるが、外出時は、お金を持つての買物も時々できている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がいつでも電話や手紙をできるように支援している。	利用者の希望時、また、職員が促してハガキや手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花やレクリエーションで作った季節感の物を飾ったり、音楽でも季節のものをとり入れるように心掛けている。	リビングは空調管理されて、細かくチェックできている。仏壇、畳などを用いて家庭的な環境を心掛けている。	食事の時間になるとBGMが流れ「食事」という雰囲気を作り出す工夫がなされている。またトイレにはさりげなく花が飾ってあるなど、共用空間への配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが過ごしやすいよう畳やソファを設置している。また、机の配置はなるべく気の合う利用者同士で過ごせるよう工夫している。	入居者全員が個室対応である。危険が少ないよう環境整備をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の好みの物や以前から使用していた物を持ち込まれており、本人が居心地のよい居室空間をつくれるようにしている。	居室の個々の個性で、ベットの位置の工夫や家具も持参の物としている。	訪問者用にソファが設置されている居室もあり、居心地の良い居室空間作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理整頓に心掛け、共用空間には手すりを設置してあり、歩行や移乗など自立した生活が送れるようにしている。	構造がバリアフリーであり、自立支援ができるように、札や表示もわかりやすくしている。		